

# エネルギー環境 教育のひろば

北海道エネルギー環境  
教育研究委員会  
広報部会  
2011/3/16 発行  
第22号



## 全体研修会開催

ホテル・ライフオート札幌にて約六十名の参加があり、感性の育み等を中心に活発な討議がなされた。

平成二十三年二月十一日にエネルギー環境教育研究会の全体研修会が開催された。この会は、研究会発足以来、毎年二月の開催が継続されている。吉香委員長の挨拶で開会。国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部部長の角屋重樹氏を迎え「これからのエネルギー環境教育」について講演があった。

「環境に関する教育的価値」として、①美しいものを美しいと感じる心の育成、②理性に基づく感性の育成、③感性と理性を育むことの重



要性をあげた。①に関しては、環境教育の基本は、まず「美しい」と感じる感性から始まること。たとえば、植物、星、月、川を見て、色の美しさや形の美しさを感じることは、重要性をあげた。②に関しては、ゲート、ダビインチ

アインユタイン等に代表されるように科学者達は、理性に基づく感性をそなえていたこと。構造の美しさ、機能の美しさ、単純性、統一性があった。③に関しては、見通しをもった体験活動の重要性、感性を育てる言語は教師や家族から学び正しい言葉を使う文化を育てること。あの荒れた中学校の校長が本物の絵を飾ったが、その絵は傷つけられることなく、校長は2枚3枚と増やしていった事例から、本物は子どもの感性に訴える力があることが証明されたこと。また、飼育・栽培から他者とのかわり方を学ぶことを挙げた。

## グループ討議

全体研修会後半は参加者が七グループに分かれ、これからのエネルギー環境教育について話し合った。

**Aグループ** エネルギー環境教育の教科領域としての位置づけについて。食育を推進する立場から「おいしい」と感じる感性の育て方が共通理解できた。

**Bグループ** 感性には、美しいと感じる初歩的な感性と、変化や違いに気付く高度な感性がある。違いに気付くようになると問題解決に向けた発見の力が育つ。教師の豊かな感性は子どもに影響。

**Cグループ** 学校ぐるみでの取り組みが必要。エネルギー環境教育は、教育課程の中に、領域として位置づく必要がある。目に見えないエネルギーを体感する教具の紹介。  
**Dグループ** 感性を育むこ

とは学校全体で取り組む必要がある。学校祭で作った物は最後にはゴミとなる矛盾。美しい物、良い物は心を動かす。本物を見せる事が大切。  
**Eグループ** 様々な場面での教師の働きかけが重要。環境教育への取り組みは、日常の授業の中にエネルギー環境教育の視点を入れていく意識が大切。

**Fグループ** 感性と表現力が大切。親の感性も大きく影響。小中高の連携の大切さ。道徳教育の重要性。本研究会の取り組みにブレはない。

**Gグループ** 教師の感性を磨かなければならない重要性。身近なところから行動する事が大切。感じた事を書き残しそれを交流し振り返る事で感性が磨かれていく。最後に角屋氏から本研究委員会が自信を持って研究を推進してほしい等のアドバイスがあった。

# 勉強会開催

昨年十二月一日、ホテルライフォート札幌にて、勉強会が開催された。約七十名の参加者があり、産業財産権制度等の講演が行われた。



特許業務法人ピー・エスの内海司氏より知的財産権が実生活に密接にかかわっている事例についての講演があった。ゴルフボールの開発競争、製薬業界の医薬品を例にあげ、特許権がとも力の強いものであること。①二十年間保護される技術的な権

利である特許権、②実用新案権、③新幹線のぞみ等の二十年間保護されるデザインの意匠権、④アップル社のリンゴのマーク等の商標権など、4つの権利をわかりやすく解説された。

研究部からは、研究成果として、実践の蓄積、課題解決学習の展開、教職研修の充実を挙げた。また、課題としては、研究仮説をもとにした実践研究の結果、児童・生徒の成長のための具体的な手立てとして、現状実態をとらえるためのアンケート等の提案があった。また、研究仮説として、「子どもたちが自らの学びを位置

づけた授業展開を構築することによって感性が磨かれ、エネルギー問題、環境問題を自分事としてとらえ、その解決のために自ら意志を決定し、足元から行動できる児童・生徒が育成される」と提案した。最後に、北海道電力株式会社より、エネルギー環境教育

## ホームページの活用を!!

本研究委員会のホームページがあるのをご存じですか？委員会の発足当時のことなどがよくわかります。

また、開発部会で作成した施設見学ガイドマップや人材バンク・教材バンクなどの資料が充実しており施設見学のための資料として活用するだけではなく、子どもたちが疑問に思いそうなことについて解説してありますので、ちょ

への取り組みについて、学校現場に、どんな支援ができるか支援の具体例が提示された。実践例として、出前授業ゲストティーチャー、教えて北電ホットライン、施設の見学対応、エネルギー環境機材による体験機材などが紹介された。

つとした調べ学習などにも参考になります。

概要	探検1	探検2	探検3
----	-----	-----	-----

上のボタンをクリックすると詳細情報が表示されます

発電所探検 探検1

ごみの焼却によって発生した熱エネルギーはどのように利用されているのかな？

市内で回収したごみは、工場に集められ、焼却炉で800~900℃の高温で燃やされます。

その熱を利用して、ボイラで高温高圧の水蒸気を作ります。(水蒸気の温度は250℃にもなります)

## 創立十周年全道大会 開催予告

来年度は本研究会にとつて創立十周年という節目の年となる。第四回北海道エネルギー環境教育研究大会、札幌大会が、平成二十三年十一月十一（金）、十二（土）の両日、札幌市立中央中学校とホテルライフォート札幌にて開催される。

一日目は、小学校、中学校、高等学校の八授業が公開、授業分科会が行われる。二日目は、分科会報告、記念講演が予定されている。

北海道エネルギー環境教育研究委員会

連絡先  
北海道エナジートーク21  
札幌市中央区北1条西5丁目  
北1条三井ビル2F  
TEL 011(251)9710  
FAX 011(251)3974  
<http://www.enetalk21.gr.jp>  
(エナジートーク21)  
[http://www.enetalk21.gr.jp/ek/ek\\_index.htm](http://www.enetalk21.gr.jp/ek/ek_index.htm)  
(北海道エネルギー環境教育研究委員会)